
PANDORA

神崎昂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

PANDORA

【Zコード】

Z6758Y

【作者名】

神崎昂

【あらすじ】

これは光の国という平和な国で暮らす1人の少年がとある組織と関わることにより少しずつ眠つてゐる力を開花させていき、数多くのテロリスト、殺し屋、侍、忍者、海賊などと闘いを繰り広げ世界を壊滅から救つしていく物語である。

第1話 パンドラの箱（前書き）

これは光の国という平和な国で暮らす1人の少年がとある組織と関わることにより少しづつ眠つてゐる力を開花させていき、数多くのテロリスト、殺し屋、侍、忍者、海賊、賞金稼ぎなどと闘いを繰り広げ世界を壊滅から救つしていく物語である。

第1話 パンドラの箱

風間乱丸「ふあー・・・だるい！校長の話だるいしサボるか・・・」

これがこの物語の主人公。現在高校2年生である。

朝倉利子「何やつてるの？早くしないと始業式はじまるよ？」

乱丸「ダルいから一緒にサボろつか？」

乱丸はふざけて利子の小さな胸に顔を突っ込む。

乱丸「ん～小さい！俺やっぱ巨乳の良さわかんないわ！貧乳サイコー！とくに利子の！！」

利子「お前は怪物くんか！つか胸さわるな！ほらいぐぞ！！」

乱丸と利子は遅れて始業式に参加する。

赤星功太「遅いぞ二人とも！何やつてたんだ？」

利子「ごめんごめん！この子が言うこと聞かなくつて！！」

乱丸、利子、功太の3人は小学生からの幼馴染である。

クラスのHRが始まる。

山田先生「はい！皆出席！！今日から2学期が始まります。まだ夏休み気分の人も多いようですが切り替えてやつて行きましょう！そして最近物騒な誘拐や殺人などの事件が相次いでるようなので気をつけましょう。」

星野晋作「大丈夫かな？僕、なんか怖いよ・・・」

西河優子「大丈夫よ！！あの先生いつも大げさだからね。」

乱丸「利子！今日、カラオケ行こう！！俺、トライアングルゲームの曲の振り付け覚えたんだ！ん～やっぱ短髪のディスコが1番可愛いな！ストレートのリズムやパーーマのヴォイスもいいけど・・・」

利子「ごめん！今日急いでるんだ！！」

乱丸「最近いつもそうじやん！じゃあ・・・仕方ないから功太！」

功太「悪い！俺もなんだ！」

乱丸「チエツ！」

後藤五月「あの・・・乱丸君ちょっと話が・・・」

乱丸は屋上に呼び出される。

乱丸「えっ！好きってまさか俺のこと？」

五月「・・・だめならいいんです！ただ・・・ずっと伝えられずにいるのは良くないかなって！」

乱丸「ごめん！俺好きな人いるから！でもありがとう・・・うれしかった。誰かに告白されたの初めてだったから。」

五月「そうかやつぱり利子ちゃんのこと・・・ううん！気にしないで！！じゃあまた明日！！」

五月は悲しそうに帰つていった。この後、悲劇が起きるのである。

〔冥王星〕
〔冥王星〕「分かつたなサム必ず乱丸を誘き寄せなんだ！そして彼に眠つてる力を目覚めさせるのだ！！」

サム「はい！かしこまりました！〔冥王星〕に出了された金額びおりの仕事は果たして見せます！！」

〔冥王星〕「では切るぞ！」

浅利剛「なあ洋子知つてるか？」

風間洋子「ん？」

剛「100人殺し事件のこと。」

洋子「ああ知つてるわよ。ある少年が指を鳴らしてその瞬間にナイフが100人の人間の胸に刺さつて死んだんでしょ。怖いわよね。」

剛「にしても、なんで一瞬であれだけのことが出来るの？・・・本当に信じられない。一体どんなエレメントの使い手なんだ？」

洋子「何エレメントつて？」

剛「知らないのか？全ての人間に等しく眠つている潜在的な力のことさ！場合によつてはコンテンツつて言い方もあるみたいだけど俺

は良くしらねえ！」

洋子「ん？」

剛「どうした？」

洋子「あれってお兄ちゃんの学校の制服……うわー怖い顔の男の人に車で連れ去られちゃった！」

そこに乱丸が現れる。

乱丸「洋子……どうした？」

剛「あつ！お兄様！さつきあなたと同じ学校に通つてると思われる女の子が連れさらわれてしまいました。」

乱丸「そうか！…って誰がお兄様じゃーまだお前らの交際を認めたわけじゃないんだぞ！」

洋子「はあ～お兄ちゃん本当に面倒くさい。」

乱丸「あ？ところでどんな奴だった？」

洋子「確か小柄で髪型がポニー・テールでヘッドポンしてたかな？」

乱丸「それってまさか…五月か？くそつ…どうやって探せばいいんだ！」

タケル「心配ないですよ！」

突然PCをいじってる少年が現れた。

乱丸「お前誰だ？」

タケル「僕はタケル。あなたの友達のメアドが分かれば一瞬で居場所分かれますよ。僕のハッキング技術を持つてすればね！」

乱丸「これだ！」

タケルはPCを使い一瞬で五月の居場所を見つけた！

乱丸「第三倉庫の裏か！ありがとう…ってあれ？」

気付いたらタケルの姿はなかつた。

英樹「急いでるんだろ？乗れよ！」

利子「話は全て聞いてた。」

功太「ちょうどいい！今日は任務が休みだ！」

乱丸「任務…？まあいい早くしてくれ…！」

乱丸、利子、功太は英樹の車で第三倉庫へ向かう。

サム「ふん！来たか！」

五月「乱丸君！！来ててくれたの？」

乱丸「今すぐに助けるからな！」

サム「まあいい！皆すぐにあの世へ送つてやる。」

サムはナイフを3本取り出し、乱丸に向かつて投げた。

乱丸「ぐあ～肩が！～くそつ！！」

五月「乱丸君！」

サム「苦しそうだな！じゃあそろそろ楽になるか？」

サムは杖に仕込んだ刀を取り出した。そして・・・

サム「ヒヤハ～死ね～！！」

乱丸「ウインドエレメント風の元素チャージ！！」

乱丸の掌を緑色のオーラが覆う。

サム「・・・これがこいつのエレメントか？やはり冥王星の言つてた通りの・・・だが俺の攻撃の方が速い！」

乱丸「れつぱうしょう烈風掌！！」

乱丸が掌を刀のようすにサムの胸を切り裂き、サムは倒れた。

乱丸「ハアハア・・・なんだこの力は？」

乱丸は訳が分からなくなり出血の量と自分のしたことに対する困惑でその場に倒れ込む。

第1話 パンドラの箱（後書き）

次回、記憶喪失の少年が登場。

第2話 記憶をなくした少年（前書き）

乱丸は自身に眠つてゐる力を覚醒させ殺し屋を倒し、そして混乱で乱丸も倒れてしまつ。

第2話 記憶をなくした少年

利子「えつ？ 嘘でしょ？ 亂丸もエレメント持つてたの？」

功太「いざとなつたら俺の“火の元素”や利子の“水の元素”で倒そうと思つてたが必要なかつたようだな。」

利子「あつ！ そうだ！ 忘れてた！ 五月ちゃん。大丈夫だつた？」

五月「うん！ 大丈夫！！ 皆がすぐに駆けつけてくれたおかげで助かつたよ！」

利子は五月の縄をほどいた。

そして乱丸、五月は病院へ搬送される。

五月は検査の結果体に異常がなかつたためすぐに帰宅。乱丸は肩の傷が深かつたため3日間だけ入院することとなる。

入院1日目

乱丸「病院つて・・・意外と暇だな！ まあ学校行かずに済むくらいいけどね。ちょっとコンビニ行つてなんか買ってこようかな？ ウォ！」

乱丸はある少年とぶつかる。

乱丸「悪い！ 大丈夫か？」

名前のない少年「ああ！ 大丈夫だ！ 君こそ大丈夫？ 肩怪我してるんじゃないのか？」

乱丸「なんてことねえよ！ とこりでお前、名前なんて言うの？ 僕、乱丸！」

名前のない少年「分からなんだ・・・」

乱丸「いやいや・・・そんなことないだろ？ なんで嘘つく？ 名乗りたくないなら無理して名乗らなくてもいいぞ。」

名前のない少年「いや・・・本当に分からなんだ！ 自分が誰なのかもどこから来たのかも・・・気付いたらここにいて記憶が全くなあんだ！」

乱丸「記憶喪失か……」「めん！」

名前のない少年「いや！いいんだ！」

乱丸「あのさ……友達にならない？功太も利子も全然見舞いに来なくて暇なんだよね。」

名前のない少年「ありがとう…つれしいよ！」

乱丸「よし、じゃあこれから名前呼ぶとき困るから俺が名前付けてやる！……『空』なんてどうだ？」

空「気に入つたよ！いい名前だね！！」

乱丸「よし！お前はこれから空だ！」

乱丸と記憶をなくした少年『空』は友になる。しかしこの乱丸も少年もこれから事件に巻き込まれていくこととなる。

そのころとある部隊の本部では

機械「パスワード認証完了！」

風間蓮「第5班無事帰還しました。」

永沢誠司「よし！良くなつたな！！例の殺し屋は捕まえたのか？」

松本裕「はい！……しかし我々が現場に到着したら殺し屋が倒れていました。命には別状なかつたですが胸に切られた後がありました。」

遠藤麗菜「あれほどの大きな男を倒せる男がまさか我々月光以外にいるとはね……ん？」

遁馬「馬の名前」「ヒヒーン！」

三浦翔「第7班も無事に帰還しました！」

第7班の三浦翔は馬の上に乗つて帰還した。

誠司「……他のメンバーはどうした？」

翔「はい！遁馬があまりに暴走して早く走るので馬車が途中で転落してしまい。途中でいなくなつてしましました。私は“動物の果実”の力でなんとか遁馬とともに帰還しました。」

誠司「……そもそもなんで今どき馬なんか？」

翔「すいません！私が車を使おうとすると遁馬嫉妬して襲い掛かつ

てくるんです！」

誠司「まあいい！会議を開くから皆、班員を集めて会議室へ集合！」

そのころとある喫茶店では

北沢風神「えつ！マジで乱丸入院したのかよ？」

南海光一「それはまずいな！早く見舞いに行かないと！じゃあなマスター！」

英樹「おう！また来るんだぞ！特上パフェと特上サイダーご馳走してやるからな！」

風神と光一は喫茶店を出て乱丸の病院へ向かう。

風神、光一もまた乱丸、利子、功太の幼馴染であり、風神、光一は別の高校に通っている。

英樹は乱丸、利子、功太、風神、光一の行きつけの喫茶店のマスターである。

利子「全く・・・ほつときやいいものを・・・」

功太「まあいいじやねえか！これでこの店には3人しかいないんだ！」

英樹「ああそうだな！」

英樹は店の札をOpenからCloseに変える。

英樹「さあ！集会を開くぞ！内容は他でもない。突如発覚した乱丸の力についてだ！」

英樹が本棚をずらすと地下へ続く階段が現れる。

第2話 記憶をなくした少年（後書き）

利子、功太、英樹の正体とは？

第3話 怪力の桜（前書き）

冥王星とは何者？

英樹、利子、功太のつながりとは？

第3話 怪力の桜

とある暗いアジトにて・・・

エリー「サムは失敗したようですね。」

エリー・・・冥王星に雇われた女傭兵

冥王星「いや！成功さ！何故なら乱丸が何色のオーラを扱えるのか・・・何のエレメントを秘めてるのかを知ることが出来たからな！さて、では次の任務だ！！神風隊の5番隊を乱丸が入院した病院へ送り込む。そこには私が殺したくて仕方なかつた元総理が入院してから調度いい！派手に荒らしてもらおう。くくく・・・神風隊の5番隊隊長のツチノコは“土の元素”の使い手！土の元素は5大元素の中で1番攻撃の範囲が広く一点集中時の攻撃においては1番効果が大きい！！さてさて乱丸は私たちの組織に入るかそれとも殺すか？」

そのころ特殊部隊「月光」の会議では。

永沢誠司「あのサムという男。やはり我々が捜査している組織と絡んでいた！」

永沢誠司・・・月光の最高指揮官。

風間蓮「だが、例の組織には金で雇われていただけで詳しい情報は持つていなかつた。」

風間蓮・・・？月光 第5班 班長？乱丸の父親

松本裕「そうか・・・」

松本裕・・・月光 第5班 班員。

浜田守「ところで第7班はいつになつたら帰つてくる。」

浜田守・・・月光 第5班 班員 司令塔リーダー。

三浦翔「もうそろそろ帰つてくる頃なんだが・・・」

三浦翔・・・月光 第7班 班長

遁馬「ヒヒーン！！」

遁馬・・・月光 第7班 馬？

遠藤麗菜「お前のせいだろ！？」

遠藤麗菜・・・月光 第5班 班員

そのころ馬車から転落した第7班の班員達は・・・

植田健「痛えな！くそ遁馬の野郎！帰つたらただじや置かねえぞ！」

原田桜「本当に・・・」

植田健・・・月光 第7班 班員

原田桜・・・月光 第7班 班員

原田の携帯「フルブル・・・」

原田「はい！えつ！？」

そのころ入院してる風間乱丸、空は・・・

ナースA「きやー！」

空「お姉さん！いいおっぱいしてますね！Eはあるんじゃないですか？」

空・・・記憶喪失の少年

空はナースの巨乳を揉んで楽しんでいた！

乱丸「そうだ空！そうやって記憶を失う前の感覚を取り戻すんだ！」

空「乱丸君も誰かの揉みなよ！」

乱丸「じゃあ俺は貧乳っぽいこの人のを・・・あ～やつぱ貧乳に限るわ！C以上とか魅力感じねえ！」

空「え～うそ？僕は断然巨乳派だよ！この人どう見てもA以下じゃん！おっぱいあるの？」

乱丸「いやA以下つていくつだよ！にしても流石に小さいなーまさかお前男じゃないよね？」

乱丸は顔を上げた瞬間凍りつく・・・

原田「久しぶりだね乱丸！」

空「もしかして知り合い？」

乱丸「まずいぞ！空！殺されるぞ！こいつは父ちゃんの所属する組織『月光』のメンバー『怪力の桜』だ！」

原田「本当にあんたは相変わらずだね！久しぶりに重いのくらいなさい！！」

乱丸「ぎやー！！！！！」

乱丸と空は桜の怪力で思いつきり殴られる。

月光の会議

誠司「ということで桜を病院に送ることにした。乱丸くんの警護もそうだが、元首相が入院中だ！万が一のときのためだ！」

蓮「桜か・・・乱丸の怪我が悪化してないといいが・・・」

そのころ、英樹のバーでは。

英樹「誰もいないな！」

久野英樹・・・？ ROOTSのリーダー

？“木の元素”の使い手

利子「ええ！大丈夫よ！」

功太「おっ！メールだ！・・・はあ？」

タケル「お前ら遅いぞ！」

赤星功太・・・？ ROOTSのメンバー

？“火の元素”の使い手

朝倉利子・・・？ ROOTSのメンバー

？“水の元素”の使い手

タケル・・・？ ROOTSのメンバー

？ハッキング、情報処理

担当

英樹「それでは今回の話は他でもない乱丸を組織に入れる件についてだ！まさか“風の元素”が使えたとはな！明後日退院だよな？すぐにはでも引き入れるぞ！」

功太「その件なんだが・・・」

英樹「どうした？」

功太「乱丸の入院が1ヶ月に伸びたらしい。複雑骨折だそうだ。」

英樹、利子、タケル「いったい何があつた！？」

？「お取り込み中すいません！」

英樹「おお！待つてたぞ！」

利子「だれ？このきれいな女人？」

英樹「紹介しよう俺の大学時代の同級生でROOTSの新メンバー、

エリーだ！」

エリー「よろしく！」

第3話 怪力の桜（後書き）

エリーが ROOTS^{ルツ} にスパイとして潜入！？

第4話 オリンパス（前書き）

冥王星の雇つた女傭兵エリーがROOTSにスパイとして潜入してしまつ。

第4話 オリンパス

エリーがROOTSに入会して数日後……
タケル「え……エリーさんは英樹さんとた……ただの友達なんですか？」

エリー「そうよ……ただの大学時代のお友達」

エリーはわざとセクシーな口調で話した。

英樹「おい！エリー！タケルを誘惑するな……」いつはまだ中学2年だぞ！」

エリー「あらー！」めんなさい！けど、中学でここまでパソコンを使いこなせるなんてすごいわね！私機械系苦手だから。」

功太「おっ！また乱丸からメールだ！」

利子「なんて？」

功太「『現在、月光のメンバーの原田桜が元総理の警護のために病院に来てる。今、色んな意味でいそがしいから見舞いには来なくて結構だぜ！来たら死ぬかもよ？』だとさ！」

利子「なんであいつの入院期間が延びたのかなんとなく分かつたよ！」

功太「俺もだ……どうせあいつのことだ！貧乳の話でもしてキレさせたんだろう……『にかの誰かさんと同じで意外と気にしているからな！』

利子「なんか言つた？」

功太「……いいえ『恐』」

利子「あんたも乱丸と同じ目に合つたか？」

功太「ウオ！」^{もうじゃじゃうわん}・・・助けてくれ！」

エリー「『猛蛇蹊蹕！』」

エリーが墨で紙に蛇の絵を書き始める。そしてその蛇の絵が紙から飛び出し利子の体を縛りつける。

利子「……嫌……（泣）なんでこんなところに蛇がいるのよ？ちょ

つとしかも動けないし・・・誰かこれ取つてよ！私、蛇だけはだめなのよ！」

英樹「久しぶりに見たな！エリーのコンテンツ。」

エリー「解除！」

ヘビが墨になる。

利子「あれ？」

エリー「フフフ！お嬢さん可愛いわね！私は“絵画の要素”の持ち主。」

功太「コンテンツ？」

英樹「お前達にまだ元素^{エレメント}と要素^{コンテンツ}について説明してなかつたな。つま

り・・・」

タケルがハッキングである情報をキャッチする。

タケル「あつ！！！・・・やばいぞ！！」

英樹、功太、利子「おい！マジかよ？」

エリーの携帯「プルプル・・・」

エリー「ちょっと失礼！」

エリーは英樹の喫茶店の外へ出る。

エリー「もしもし？冥王星ですか？」

冥王星「ああ！私だ！5番隊を桐山病棟に送り込んだぞ！もうじき着くはずだ！目的は二つある。一つは無差別な襲撃に見せかけて入院してた鳩田^{はとだ}元首相を殺すこと。そしてもう一つが乱丸をオリンパスに引き入れるか殺すかを見定めることだ。この組織の首領の神崎昂様が行方不明になつてからというもの神風隊の壊滅が後を絶たない。1～16番隊のうち、12、13番隊はROOTSによって潰^{つぶ}され。8、10、11、14番隊は月光によつて潰された。まさか一桁台の部隊まで潰されるとは流石にこの組織も危ないかもしだいいな。」

エリー「あの・・・私は月光にスパイとして潜入した方が良かつたのでは？今の話を聞く限りでは明らかに月光の方が危険かと？」

冥王星「分かつてないな！エリー！月光の方にはすでに暗殺部隊の

方から何人か潜伏させている。お前にはそこでやつてもらいたいことがあるから、私はROOTSに送り込んだんだ！心配するな！いざというときのために私も動きを進めている。昂様ほどではないが私も頭脳が発達している。様々なケースを計算しているのだよ！」

闇の中で冥王星は微笑んだ。

冥王星・・・？『オリンパス』の最高幹部？現在、^{ボス}首領代理

そのころ桐山病棟では

桜「乱丸。お前にちょっと話がある。」

乱丸「ん？」

桜「この前、殺し屋倒しただろ？」

乱丸「は？」

桜「私、見ちゃつたんだよね！あんたが殺し屋のこと斬り倒したの。」

乱丸「実は・・・そなんだ！俺にも良く分んないけど・・・親父には？」

桜「言えるわけないだろ！知つてるのはあたしだけさー！」

空「乱丸君！桜さん！ジース買つて来たよ！」

空が廊下から走つてきた！そしてあの男とぶつかつてしまつ。

鳩田^{はとだ}豆男^{まめお}「ほほほほほ！危ないではないかえ坊主！」

鳩田豆男・・・光の国の中相

空「じめんなさい！」

豆男「あれ？それだけかえ？わちきが誰か分からんのかえ？」

空「すいません・・・分かりません！」

豆男「ペ～ペペペ～！ほ～ほほほほ！そんなはずないだろ？がえ？」

元首相のわちきを・・・アホカンに総理の座を奪われたこのわちきを知らんはずないえ？」

乱丸「こいつ記憶失つてるんだよ！だからあんたのことも多分覚えてない！」

豆男「ほほほほ！嘘をつくてないえ！」このムカつくガキどもが！」

豆男が空を殴りつける！

乱丸「て・・・てめえ！」

桜「よせ！仮にも首相だ！」

豆男「ほほほ！仮にもね・・・そなた気に入つた！わちきの愛人に
ならんかえ？おお～可愛いおっぱいだえ！」

豆男は桜のおっぱいを触つた。

豆男「ほほほ！冗談だえ！それじゃあな！」

桜「やつぱあいつ殴つていいか？」

そのころ外では・・・

5番隊隊員A、B「では我々は病院内の入院患者をロビーに集めて
見張ればいいんですね！」

ツチノコ「ああ！ そうだとモ！ だが！ 本当の目的は忘れるな！ 総理
の暗殺はお前ら3人に任せよう！」

5番隊隊員C、D、E「はつ！」

ヤシ「だが中にはあの風間乱丸、月光の原田桜もいる。決して氣を
抜くな！」

5番隊隊員全員「ははつ！」

ツチノコ「まずは先制攻撃だ！」

ツチノコの両手を茶色のオーラが覆い、その両手を病棟に向ける

5番隊隊員A「おお！ 出たぞツチノコ様の“^{グラウンドレメンツ}土の元素”！！」

ツチノコは両手から岩の塊を召喚する。

ツチノコ「^{いわづぶて}岩飛礫”！！」

病棟に向かって岩の塊を掌から大砲のようにして撃ち、病院の外壁
を破壊する。

病棟内では

入院患者「なんだこの振動は？」

病院のスタッフ「いつたい何事だ？」

場面は外に戻る

ツチノコ「さあ！いくぞ！」

ツチノコ・・・オリンパス特殊部隊『神風隊』の5番隊隊長

ヤシ「刀がうずく！」

ヤシ・・・オリンパス特殊部隊『神風隊』の5番隊副隊長

第4話 オリンパス（後書き）

一体病棟はどうなつてしまふのか?
乱丸は？桜は？空は？
興味ないと思うけど鳩田は？

第5話 風間乱丸、原田桜 v/s ロリスト（前書き）

桐山病棟がオリンパスの5番隊に占拠されてしまつ。

第5話 風間乱丸、原田桜 vs テロリスト

・英樹の喫茶店にてタケルがハッキングでとある情報を掴む。

タケル「どうするんだよ・・・オリンパスの5番隊が桐山病棟を占拠する予定らしいぞ！」

久野英樹「あそこには鳩田元総理もいるんだよな。」

赤星功太「ああ？ あんな奴どうだつていいだろ？ それより乱丸が心配だ。」

朝倉利子「でもアイツは“風の元素”^{ウインドエレメント}持つてるし、月光の桜さんもついてるから大丈夫なんじゃない？」

功太「まあそうだな！ 俺らの出る幕じゃねえだらうな！」

英樹「バカ言え！ 今度の敵は5番隊だぞ！ 今まで戦った1・2・1・3番隊とは強さの桁が違うんだぞ！ とくに1～5番隊は化け物ぞろいだ。隊長だけでなく隊員の戦闘能力は半端ないぞ。恐らく月光の奴らでもまともに太刀打ちできないぞ。」

・桐山病棟3階放送室

病院のスタッフ「なんなんですかあなたたちは？」

ツチノコ「ちょっと・・・放送室を貸してもらえるだけでいいんですよ。」

スタッフ「いい加減にしてください。」

「ここはあなたたちのような人の来るようなところでは・・・」

ヤシ「“十字架斬り！..”」

スタッフ「ぐは！」

放送室にいたスタッフがヤシに一本の刀で斬り殺される。

ツチノコ「全く黙つて使わせればいいものを。」

放送「ピンポンパンポン！」

ツチノコ「病棟の皆様聞こえますか？ただ今をもつてこの病棟はテロリストに占拠されました。入院患者、看護婦、病院スタッフの方々は1階のロビーに集合願います」

・桐山病棟1階ロビー

隊員A「おりーさつせとしりー」

隊員B「ここに集められて言われてんだよ！――」

しばらくしてツチノコ、ヤシが降りてくる。

ツチノコ「全員集まつたか？」

隊員A「恐らくこれで全員です。」

ヤシ「嘘をつけ！重要なのがいなじやねえか！」

隊員B「全てのフロアは確認したつもりですが・・・」

ツチノコ「風間乱丸、原田桜、鳩田「笑」元首相、首相の秘書がまだ見つかってない。」

ヤシ「「笑」つてあんた・・・」

ツチノコ「何が悪い！？鳩ポッポのことにについて触れただけマシだろ？まあいい！第2、3、4フロアにはちゃんと隊員がそれぞれいる。見つかるのも時間の問題だな！よしこの袋にお前達の携帯を入れてもらひ。もしも入れなかつた奴がいたら制裁を加える。いいな？」

？

隊員B「お前今入れなかつたな」

患者A「本当に持つてないんです（泣）」

隊員Aがポケットの中を確認する。すると携帯が現れる。

隊員A「持つてんじやねえか！しかもこの110つて番号なんだ？まさか警察に電話しようど？」

隊員B「隊長お願いします。」

ツチノコ「“土の元素チャージ！！”……“石包丁”」
ツチノコは口から先の尖った鋭い石の刃物を召喚し患者Aに向かって飛ばす。

患者A「ぐは……」

患者B「あんた、なんてことするんですか？」

ツチノコ「へへへ！」いつ馬鹿か？見ず知らずの男を庇いやがつたよー思いやりの心？笑わせんな！」

患者B「あんたら腐つてるよ！」

ツチノコ「残念だな！お前はちゃんと携帯渡したのにこいつを庇つたがためにここで死ぬんだよ！…“岩剣石刀”！」

ツチノコは刀を象つた岩を召喚し患者Bを斬りつける。

ツチノコ「それじゃ！俺とヤシは外を見張つてるからよ。このカス共の見張りはお前らに任せんぞ！」

隊員A B「はつ！」

患者C「めちゃくちゃだ！」

隊員A「これからは余計な」とを言つた奴は殺す。いいな？」

・桐山病棟4階 倉庫裏

鳩田豆男「いつたい何が起つてるんだえ？テロリストがまだうろついてるえ！」

秘書「しつ！お静かに！見つかってしまいま……」

隊員C「みつけた！」

隊員Cが発砲する。

秘書「鳩田さん危ない！」

秘書が鳩田の顔を床に叩きつける。

鳩田「ぎやーわちきのイケメンフェイスが崩壊するー」

秘書「大丈夫ですよ！あなたの顔は元々崩壊してますので問題ないです。」

隊員C「つるさい奴らだ！」

隊員Cが秘書と鳩田に発砲する。

何かの物音「カララン・・・・」

原田桜「バカ！見つかるだろ？」

隊員C「ん？」

隊員Cは銃を向けながら恐る恐る角を曲がる。しかし誰もいなかつた。

風間乱丸「今だ！」

空「うおりや！」

そらが隊員Cの足をつかむ。

隊員C「貴様離せ！」いつどつかで見たことあるような・・・」

桜がデコピンの構えをする。

隊員C「デコピンだと？貴様なめてるのか？」

桜「ただのデコピンではないぞ！」さくらじる「桜印！」

桜のデコピンを喰らい隊員Cは気絶する。

乱丸「・・・デコピンだけでテロリストが撃沈？なんなんだ？やっぱ月光の奴らは化け物だらけだ！」

桜「さてさてこれからどうする？」

乱丸「桜さんと空は先に外へ出ててくれ！2階、3階のテロリストは俺が倒す！この数日間俺が何もせずただ病院で寝てただけだと思うか？そう！ちゃんと“風の元素”ウイングエレメント”の特性について研究してたんだ！こいつらは今の俺の腕を試すには調度いい！ここに鳩田総理が倒れてるけど・・・まあほつといでいいだろう！」

桜「お前！頼もしいな！だが外にはツチノコとヤシがいる。流石の私でも1人で神風隊の隊長を倒すなんて無理だ！しかもツチノコは神5の1人だ！」

乱丸「そんな心配はする必要ないみたいだぜ！見てみろよ・窓の外を！」

ツチノ口「~~~~~つこ月光のお出ましか~」

ヤシ「つか・・・今どき馬って・・・」

遁馬「ヒヒーン~!~」

月光第7班の三浦翔と植田健が愛馬の遁馬に乗つて登場する。
植田健「ヒヒーンじやねえよいつもお前は荒っぽいんだよ~」

三浦翔「さてさて神5のツチノ口が相手とは腕がなるぜ~!~」

第5話 風間乱丸、原田桜 vs ロリスト（後書き）

次回、月光第7班 vs ツチノコ、ヤシー！
化け物どりの対決！

第6話 二浦翔、植田健、遁馬 vs ツチノコ、ヤシ（前書き）

桐山病棟に入院している二浦翔、植田健、遁馬の前に5番隊隊長のツチノコと5番隊副隊長のヤシが立ちはだかる。

第6話 三浦翔、植田健、遁馬 vs ツチノコ、ヤシ

・桐山病棟 正門

三浦翔と植田健が銃を構える。

翔「さあ！降参するんだ！」

ツチノコ「泥粘土！！」

ツチノコが掌から泥を召喚し銃口に向けて飛ばす。

銃口が泥で塞がれてしまつ。

健「貴様何をした？」

ヤシ「くくく！撃たない方がいいぜ！今、発砲したら銃が爆発してお前らの方が吹き飛んじまうぜ！！」

健「くそ！！」

ツチノコ「じゃあこいつから攻撃するか！“石針”！」

ツチノコが口から大量の石で出来た針を飛ばす。

翔「せりやー！！

翔が斧^(オ)を回転させ、ツチノコの飛ばした針を全て弾く。

ツチノコ「中々やるじゃないか！」

翔「いくぞ遁馬！」

遁馬「ヒヒーン！」

翔は遁馬に飛び乗る。

ツチノコ「石針千本！！」

ツチノコが石の針の量を増やし攻撃の範囲を広める。

翔「遁馬、移動するぞ！“走馬灯”だ！！」

遁馬「ヒヒーン！」

ヤシ「消えた？」

ツチノコ「一体どこへ？」

遁馬「ヒヒーン！」

翔「こいつだ！」

遁馬がヤシの場所に、翔がツチノコの場所に現れる。

ヤシ「フン！ こんな馬斬つてやる！ 何？ こいつなんて力だ！」

遁馬が足でヤシを踏みつけようとするのをヤシが刀で受け止める。

ヤシ「だめだ！ 抑えきれない・・・」

翔「牛の戦斧！」

翔が斧をツチノコに振りかざす。

ツチノコ「土積土流壁」

ツチノコは土の壁を召喚し翔の攻撃を防ぐ。

ツチノコ「やらに！ 茶土山土！」

ツチノコは翔の背後にも土の壁を召喚し、二つの壁で挟み押しつぶす。

ヤシ「ハハハ！ お前の飼い主さん死んだぜ！ ペシャンコだよーー！」

遁馬「果たしてそつかな？」

ヤシ「ばか！ 強がるな！ え？ しゃべった？ つかなんで人間になってるんだ？」

遁馬「俺はあの動物の果物の一つ“ウマウマの果実”を食べた馬人間なのさ！」

ヤシ「成る程！ まさか能力者がいたとはな。」

遁馬「ちなみに能力者は俺だけじゃないぜ！」

ツチノコ「フン！ 口ほどにもないとはこのこと。」

ツチノコの背後に野牛が現れる。

ツチノコ「んな？ 馬鹿な！ 貴様・・・能力者だつたか・・・」

翔「俺は“ウシウシの果実 モデル野牛”の能力者だ。」

ツチノコ「くそ！ こんなの予想外だ！ 泥人形！！」

ツチノコは土から泥のくぐつを10体召喚する。

ツチノコ「やれ！」

泥のくぐつのうちの5体が植田健に襲い掛かる。

健「フン！くだらない！知ってるか？聞いて驚くな！俺は月光で1番釣りと歌と踊りに長けてるんだ！！」

ヤシ「お前が1番くだらないねえ！！戦闘に関係ねえじゃねえか！」
ヤシは目玉を飛び出す。

遁馬「お前よそ見してていいのか？」

遁馬は獣人状態になつていた。

ヤシ「えつ？」

遁馬「“压鞍”！」

ヤシは遁馬の両足で踏まれ倒れる。

健「見せてやる！俺のコンテンツを！」

健は両手をゴムのように伸ばし病院の門の柱を掴む。

健「“護謨の弓矢”！」

健は勢い良く頭から泥のくぐつに飛び込む。

健「“護謨の銃乱打”！」

ツチノコ「想いつきりあの漫画の主人公のパクリじゃねえか！！」

健は腕が何本にも見える程連續でパンチを放ち泥のくぐつを5体一

気に倒す。

ツチノコ「なに？」

健「ゴムゴムの実じやねえ！“護謨の要素”だ！！」
ラバコンテンツ

翔「“残像分身”！」

翔は残像が見えるほどの速い速度で動いた。

翔「“走草斬”！」

泥人形を5体斧で一度に倒す。

ツチノコ「なんだと？」

遁馬「残りはお前一人だぜ？」

空「やばいよ！乱丸君！桜さん！テロリストが2人も来やがった！」

！」

風間乱丸「桜さん！空！早く1階へ行つてくれ！…」Jは引き受けたぞ！」

原田桜「おい大丈夫か？敵に両側から挟まれてるじゃないか？」

空「いいから行こう！乱丸君を信じるんだ！」

桜と空は1階のフロアへ向かう。

乱丸「逃げ場はなしみたいだな！いやー…参った…」

隊員D、E「死ね！！！」

隊員DとEは剣を構え乱丸に襲い掛かる。

乱丸“烈風掌（れつぷうしょう）両刃（りょうじん）！”

乱丸は同時に左の手と右の手から左右に向けて斬撃を放つ。

隊員D、E「ぎやー！！！」

隊員DとEを倒す。

乱丸「よし！そろそろ外の奴らも終わってる頃だろ？。何！？」

乱丸は窓の外を見て驚く。

第6話 三浦翔、植田健、遁馬 vs ツチノコ、ヤシ（後書き）

果たして勝つたのは月光か？ツチノコか？

第7話 ツチノコを倒せー！（前書き）

乱丸は窓の外を見て混乱する。

第7話 ツチノコを倒せ！！

風間乱丸「おい！嘘だろ？なんで、月光がやられてんだよ？」
窓の外には三浦翔、植田健、遁馬が倒れていた。

ツチノコ「ハアハア・・・余計な体力使わせやがって。」

ヤシ「全くだぜ！こんなに苦労した相手は久しぶりだ・・・」

ツチノコ「ん？あれば！おい！お前が乱丸か？」

乱丸「・・・やべえ！見つかつたじゃねえか！？」

ツチノコ「お前に聞きたい！我々の組織に加わるか？それともこの場で死ぬか？さあどうする？」

乱丸「どっちも嫌に決まってるだろ？お前らのことはよく知ってるぞ！能力のこともな！今じゃ有名なテロリストだからな。ニュースで報道されたた家に土砂崩れが起きた事件。あれは自然災害なんかじゃなくお前の仕業だろ！！他にもどうでもいいけど首相官邸が砂嵐で潰されたり、雷で一つの街が消えたりしたのもお前の仲間がやつたことだろ？？」

ツチノコ「砂嵐は確かに俺の仲間の仕業だが雷は違う。ところで我々の組織に加わる気も死ぬ気もないといつことはお前俺に勝つ気なのか？」

乱丸「もちろんだ！！」

ツチノコ「自惚れるな！若僧が！！降りてきやがれ！？」

乱丸は窓から病院の外へ飛び降りる。

乱丸「まずいな・・・あんなこと言つちやつたけど月光のこいつらですら勝てないのに俺が勝てるわけないだろ・・・」

ツチノコ「やれ！ヤシ！・・・いつは俺が戦うまでもない。」

ヤシ「分かりました！喰らえ“いかつお雷落とし！！”」

ヤシが刀を乱丸の頭上から振りかざす。

乱丸「痛つ！」

乱丸は額に軽く傷を負う。

乱丸「この野郎が！ “烈風掌” 波！！」

斬撃が波を描きながらヤシに向かう。

ヤシ「はっ！ こんなもん効かねえ！」

乱丸「ならば・・・」

ツチノコ「泥粘土！！」

ツチノコはどろの塊を乱丸の両手に向かつて飛ばす。

乱丸「なんだ？ この泥？ 取れないし重たい。 手が上がらない。 しかもオーラが手から放出できない。」

ツチノコ「ははは！ これでお前は能力が使えない！」

そのとき病院の正面のガラスの扉が割れ倒れた隊員2人が飛んでくる・・・

ヤシ「痛つ！」

ヤシは倒れた隊員に潰される。

乱丸「桜さん！ やつたのか？ 空も無事だつたか？」

原田桜「楽勝だよこんな奴ら！ 雑魚ばっかで退屈してたところだ！」

ツチノコ「ヤシ！ 斬れ！」

ヤシ「十字架斬り！！」 ・・・あれ？ いねえ？

桜は突然姿を消した。

ツチノコ「ヤシ！ 上にいる！ 気をつける。」

桜は空中にいた。

桜「“桜坂”」

桜は力カト落としの構えをする。

ヤシ「こんな攻撃俺の刀で受け止めてやる！」

桜「おらあ！！」

ヤシ「ぐはあ！！」

桜の力カト落としを喰らいヤシは倒れる。 そして桜の蹴りで辺り一體の大地が碎ける？

ツチノコ「はあ？ なんだと？ “土の元素”^{グラウンゼLEMENT}が使えるわけでもないのにここまで地割れを起こすなんて・・・にしてもヤシは今日・・・押し潰さればっかだな。」

乱丸「おい！ツチノコ！俺が掌を使えなくなつたからつて油断して
るんじやねえ！俺がいつ掌以外からは斬撃を放てないと言つた？」

風の元素 チャージ！！」

乱丸は脚にオーラを集める。

乱丸「烈風脚！！」

乱丸は蹴りとともに斬撃を飛ばす。

ツチノコ「ふふふ！バカめ！今の俺は“岩分身”だ
斬撃を喰らいツチノコを象つた岩が崩れる。

乱丸「本物はどこだ？」

空「乱丸くん！！あそこー！」

乱丸と桜は門の外へ出る。

桜「外か？」

ツチノコ「ははは！来て見ろ！」

ツチノコは高大山に向かつて走つていった。

桜「追いかけるか？」

乱丸「ああ！」

空「でも中にある患者の人たちが混乱してる。他の病院に移した方
がいいんじや？」

桜「けどどうすれば？」

風間蓮「俺たちに任せろ！乱丸・・・強くなつたな！」

風間蓮率いる月光第5班が現れる。

乱丸「父ちゃん！裕さん！麗菜さんまで！」

松本裕「後のことは俺たちに任せろ！それと桜はもっと胸をつける
！」

遠藤麗菜&桜「それ今関係ないだろ！..
裕は麗菜と桜に殴られる。

空「あの？僕は・・・」

蓮「君、記憶を失くしてるらしいな。念のために俺たちと来てもら
う。」

桜「どうでもいいことだけ撃たれた鳩田元首相はどうする？」

裕「ああ？どうでもいいのにわざわざ聞くな？」

麗菜「どうでもいいけど今回の任務つて鳩田元首相の護衛じゃなかつたっけ？」

麗菜は目を飛び出した。

蓮「さあ！乱丸！！桜！！想いつきり暴れて来い！！！神5を倒して伝説になるんだ！」

乱丸、桜「もちろんだ！！」

第7話 ツチノコを倒せー！（後書き）

次回、赤星功太、朝倉利子、久野英樹らROOTSのメンバーがついに登場！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6758y/>

PANDORA

2011年11月23日16時46分発行